



福智の祭り、ここにあり

人がいて、祭りがあり、そこにまた人が集う。

町の魅力ある観光要素。今後のPRや工夫次第では日本を代表する祭りになるかもしれない。人がいて、祭りがあり、そこにまた人が集う。できることなら町内すべての山笠が一室に介す場をぜひ見てみたい。

この山笠競演会は5回目。その3年前からの独自開催を含めても、ここ数年でのイベントである。山笠は昼から夜へと姿を変え、祭りもまた様相を変えた。より高く大きく美しく、手作りの破風で個性が強調され、竜や馬は白煙を吐き、事故を教訓に巻き込み防止の板も付けられた。山笠は確かに進化した。ただし、祭りには人の美しさが不可欠だ。人は一糸乱れぬ動作や揺るぎない統率に感動を覚える。ここで、伝統や雰囲気を守る機運が高まれば、さらに誇りある催しとなるに違いない。誕生間もない山笠競演会は、

鳴り響くのは「南木囃子」。この場面での多くは、最速の囃子が選曲される。鼓動が掻き手を高ぶらせ、継ぎ足した十メートル超の山笠が操られる。コンクリートをも削り、傾きながら回転する電飾の山笠。観衆はため息まじりで見上げ、惜しめない拍手を送った。10月14・15日の連夜、金田イベント広場で山笠競演会が開かれた。金田・神崎地区から10基の山笠が集う。二日間の延べ来場者は1万人を越え、福智町最大規模の催しとなった。

